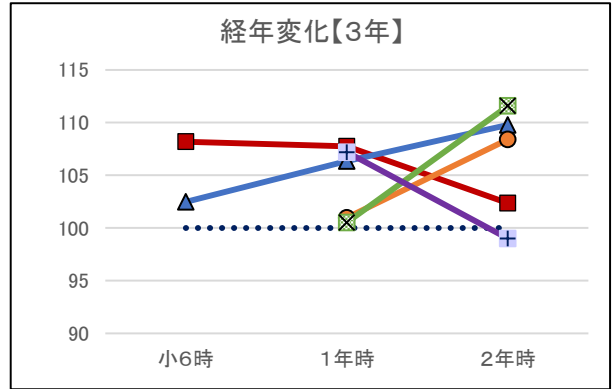
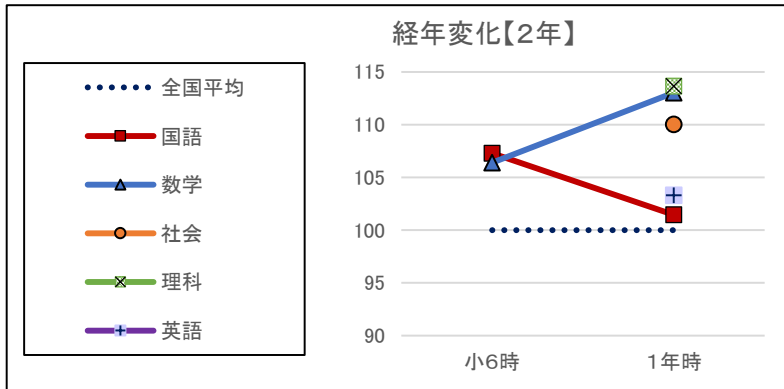


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では独自に1～2年生の社会、理科、英語と3年生の全教科で実施しています。

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

- 学校評価アンケート（生徒・保護者・教師の三者すべて）、CRTの生活行動調査（1、2年生）において、「計画的に学習へ取り組むこと」、「家庭学習時間が短いこと」が共通した課題となっている。特に、「学校に行く日の学習時間が30分より短い」という生徒がCRTの生活行動調査において1学年で全体の35%、2学年で全体の43%を占めていることわかり、このことから、本校は「家庭学習への取組」に大きな課題があるといえる。一方で、家庭学習時間が短いにもかかわらず、すべての学年において、いずれの教科も一定の学力を保っていることから、本校の学力を支えているものは「授業」であると推察される。
- CRTの生活行動調査において、「朝食をきちんと食べている（全国比：1学年-10p、2学年-18p）」、「毎日決まった時間に起きている（全国比：1学年-10p、2学年-16p）」、「睡眠時間が7時間より短い生徒（全国比：1学年25%、2学年45%）」と、家庭での生活状況、生活習慣に課題があるといえる。
- CRTの学習活動調査において、「教科の予習をしている（全国比：1学年国語-20.6p、数学-16p、2学年国語-7.3p、数学-3p）」、「返された答案の見直しをしている（全国比：1学年国語+5.1p、数学-2.7p、2学年国語-14.1p、数学-1.4p）」という項目で、全国よりも低い数値となっている学年、教科があることから、見直しを持って学習に取り組んだり、自分の学習を振り返って改善していこうとすることに課題があるといえる。
- CRTの生活行動調査（発展質問回答）において、「家族や友達、教師から認められている」という項目で肯定的な回答をした生徒の割合は全国と比べて高く、そのことが高い学力を維持していることにもつながっていると考えられる。一方で、「自分が好き」という設問で肯定的な回答をした生徒の割合は1学年で全国比-8.3p、「将来の夢や目標を持っている」という設問で肯定的な回答をした生徒の割合は1学年で全国比-10.5p、2学年で-2.2pとなっていることから、「自己肯定感」が低く、「メタ認知力」が弱い傾向にあるといえる。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> 「釧路市が目指す授業」を基盤とした、生徒の主体的な学びを保障した授業展開を全教科、全教員で質的向上を目指して改善を重ねながら継続して進めていきます。 全国学力学習状況調査、CRTの結果の分析のみならず、チャレンジテストや各テストの終了後には教科部会を設定して、各教科において「実践」と「振り返り」を繰り返すことで、より質の高い授業改善を図っていきます。 生徒の「もっと知りたい」、「もっと学びたい」などのわくわく感や、「こんなことができるようになった」などの達成感を大切に授業を実践していきます。 「考えを書く」ということに課題がみられるため、すべての教科において、根拠を明確にして説明する活動や条件やテーマをもとにして文を構成する活動を、授業の中で充実させていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや意見を積極的に発表できるような「心理的安全性」が保たれた学校・学級づくり、授業づくりを推進していきます。 「釧路市授業スタンダード（幣舞版）」の徹底を図り、より安心し、より集中して学習に取り組むことのできる環境づくりを目指していきます。 幣舞校区の小学校と連携を図りながら、「9年間を見通した学習習慣表」の実践と見直しを通して、小中9年間での学習習慣の定着を目指していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や幣舞校区の小学校と積極的に連携を図り、学力向上の基盤となる生活・学習習慣を改善させる指導を継続していきます。 「HOP・STEP・JUMP（ライフステージブルーマー）」の改良と効果的な活用方法について検討し、生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるようにしていきます。 登校後から朝の会までの時間において、朝読書の時間と朝学習の時間を設定し、より内容の充実を図ることで基礎基本の定着を目指していきます。 生徒の「学びの必要感」を喚起しながら、その必要感に応じて放課後学習（まなび舎クラブ）や長期休業期間における学習サポートを設定したり、取組内容を工夫したりしていきます。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点

【2学年】

- ・個人の思考時間を確保するとともに、ペアやグループなど様々な形態で、考え議論する授業の展開を行います。
- ・漢字や文法事項などの基礎・基本となる知識については、授業の始めの時間や家庭学習などで、繰り返し取り組み定着を目指します。

【3学年】

- ・授業の中で、他者との交流を経て自分の考えを深めたのち、様々な条件に従って「書く」活動を積極的に取り入れていきます。
- ・基礎・基本となる知識については定期的に復習の時間を設定するとともに、それらの活用が図られる場面を計画的に設定していきます。

数学科の重点

【2学年】

- ・生徒の「なぜ? どうして?」を引き出す授業づくりを目指し、問題や課題の工夫を行います。
- ・生徒が数学的な説明ができるようになるために、生徒同士で解くための方針を交流したり、解き方を説明する機会を大切にしています。

【3学年】

- ・知識や技能を活用する場面の設定を意図的に行い、数学を使うことのよさを実感できるように工夫します。
- ・誤答や不十分な正答を大事に扱い、生徒同士で交流しながら互いに学んでいく授業づくりを行います。
- ・自分の考えを説明する機会を授業内で取り入れ、数学的な見方や考え方を育む機会を設定します。

社会科の重点

【2学年】

- ・資料の読み取りやグラフの読み取りに課題がみられたため、資料を活用して課題解決を図っていく授業を展開していきます。
- ・引き続き、宿題や家庭学習で基礎的な知識の定着を図り、その知識を活用する授業の中で設定します。

【3学年】

- ・複数の資料から必要な情報を読み取る問題に課題がみられたため、授業においては、資料の読み取りに時間をかけて解決していくような課題を増やしていきます。
- ・知識・技能については家庭学習や宿題などでの繰り返し学習による定着を目指します。

理科の重点

【2学年】

- ・既習事項の活用を意識した授業展開が図られるように、より各単元間の繋がりを分析し、応用・活用とともに、知識・理解の定着が図られるように単元・授業計画をデザインしていきます。

【3学年】

- ・授業で得られた知識や技能についての定着を授業の中でも図られるように、活用の場面を多く導入していきます。また、そのための計画づくりを入念に行なって授業を進めていきます。

【全学年共通】

- ・生徒の主体的な学びを基本とした問題解決型学習や仮説検証の授業スタイルが効果を挙げていることが判明しましたので、より単元で斑が無いように年間指導計画に反映したものを日々の授業で進めていきます。
- ・授業の中で生徒の考えを表現する場面において、「適切な用語を用いて、科学的な根拠を持って説明すること」への生徒の必要感の促し、指導と評価を重視していき、知識・技能の理解と定着を図ります。
- ・日常の授業で生徒の思いや願いを達成し成就感を得られる場を十分に保障しながら、主体的に家庭学習に臨めるようにする授業展開を行うことを前提に、振り返りと定期的なみとりを行いながら基本的な内容や知識・技能の確実な定着を図ります。
- ・これまで同様に、上記のことに加え、生徒が「もっと知りたい」「自然って面白い」と実感できるような授業を日常的に行いながら、より一層、理科の学ぶ良さや価値付けを授業の中で講じていきます。

英語科の重点

【2学年】

- ・目的・場面・状況に応じた英作文に課題があるので、身近な題材を用いて自分の意見を「書く」、「伝える」活動を取り入れる。また、長文の要点を読み取らせる場面も設けていく。

【3学年】

- ・自分の考えを表現することに課題があるので、状況に応じて適切な内容を判断し表現できる力を育むために、授業内で生徒が自分事として考えられるような目的・場面・状況を設定し、活動を行う。また、長文の概要を捉える活動も必要に応じて行っていく。

音楽科の重点

【2学年】

- ・生徒が楽しく演奏できる機会を増やし、アンサンブルやグループ活動を通じて、自己表現のイメージ（思考）を膨らませて、音や音楽を感受（判断）し、思いや意図をもって表現する（表現）ことを大切に指導していきます。また、音楽の歴史や文化に深く理解を深めるための調査などを取り入れて、自らの表現や発想を広げられるような授業展開をしていきます。

【3学年】

- ・生徒が自分の意見や感情を音楽を通じて表現できるように、グループ演奏やソロ歌唱の機会を通じて生徒たちのコミュニケーションスキルを向上させる授業展開を進めていきます。また、異なる音楽のジャンルや文化の音楽に触れ、興味関心が沸くような、発問の工夫、問題提示の工夫をして授業展開をしていきます。

体育科の重点

【2学年】

- ・ 単元ごと「学習カード」・ロイロノートの使用によって、課題の設定・解決をねらった学習や記述による自己評価を行い主体的な学習を図っていきます。また、自分や仲間の活動を振り返りさ技能・知識について会話的な活動に結びつけ知識技能・思考判断の向上を図っていきます。

【3学年】

- ・ クロームブックを活用し、技能の確認、動きの違いを比較しながら意見交換を行い、対話的な活動の活性化につなげると共に技能の克服・改善、知識・理解、思考・判断に結びつけていきます。また、学習カードを利用することで主体的な学習に結びつけていきます。

美術科の重点

【2学年】

- ・ 洞察力、色彩感覚、表現力、創造力の向上。それらを促進するとともに、より対話的な学びを意識した学習内容をデザインすることで、生き生きと表現力を習得することができるようになると考えるため、そこに重点をおいた授業を展開します。

【3学年】

- ・ 創造性を発揮し、自己表現能力を養うこと、また、芸術作品の解釈や理解をより対話的に学習していくこと、3年生の集大成として、様々な素材や技法を駆使し満足できる作品を完成させることを重点とします。

技術・家庭科の重点

【2学年】

- ・ 授業で得られた知識や技能を実生活と結びつけていけるように、活用場面を多く導入していきます。また、製作した作品を発表する機会を多く設けるなど、話し合い活動の機会をこれまで以上に多く取り入れていきます。

【3学年】

- ・ 授業で得られた知識や技能を実生活と結びつけていけるように、タブレットを用いたプレゼンテーションやプログラムで製作した作品の発表会など、これまで以上に話し合いが行える機会を取り入れていきます。